

《市史編さん流レファレンス入門》

「茅ヶ崎の関東大震災」の調べ方

－101点の文献を活用して

平山 孝通^(*)

1 レファレンスの基本事項

文化生涯学習課市史編さん担当の窓口には、歴史に関するレファレンスの希望の方が多くみえます。

小学生の宿題から、中学生の総合学習、大学生の卒業論文、研究者や博物館などの研究機関および市町村の問い合わせ、自治会長や自治会防災担当者の研修、他課の問い合わせ、高齢者の生涯学習などと質問内容は多岐に渡ります。

市史編さん担当は古文書を基に回答できる内容を主に担当しています。

指定文化財や埋蔵文化財（考古学の遺構と遺物）に関わる内容は主に教育委員会社会教育課文化財保護担当で、年中行事・浜降祭・地名の由来・民具などに関わる民俗学の内容は主に市文化資料館で、と担当分野が分かれています。

ここ数年は2011年3月の東日本大震災の影響でしょうか、大正12年（1923）に発生した「関東大震災」に関わる質問が多いので、関東大震災を事例にレファレンスの回答の例を示してみましょう。江戸時代の安政地震も関わりがありますので参考に記しておきましょう。

まず、質問に耳を傾け、目的をはっきりと把握します。

聞きながら、【別紙】茅ヶ崎市史刊行物一覧を思い浮かべます。一覧には79冊を掲載していますので、どの冊子を、どの論文を紹介するのかを考えましょう。今回はこの一覧だけでレファレンスに対応したいと思います。

検討の結果、【別紙】の79冊の内27冊に101点の関連資料や論文が掲載されていました。当然ながら、全ての市史刊行物に目を通さなければ、101点の文献を検索することはできません。日々の準備が大切です。

どのテーマでも作業の方法は同じです。少しずつ刊行物をひもとき目録を作成して準備をしておきましょう。少ないうちは記憶に留めることも可能ですが、だんだんと手に負えなくなりますのでキーワードを決めて整理を進めます。レファレンスの方法はこれしかないと思います。（調べる手がかりとして『茅ヶ崎市史研究』『ヒストリアちがさき』各号の「茅ヶ崎市史文献目録」（全38点）を参考にしてください。）

レファレンスの希望者はこれらの資料から必要なことを学んでいただければよろしいのですが、いきなりこの101点を提示しても難しいので、伝える内容を確認して、徐々に文献を紹介します。

そのための準備として、関東大震災に関して基本事項に目を通すことをお勧めします。レファレンスに強くなる方法はいかに多くの資料に目を通すかにかかっています。いつ、何のために、誰のために役に立つかを考えるよりも、刊行物1冊でも、資料1点でも多く目を通すことから始めましょう。

では、筆者の行う準備を紹介しましょう。

まず、関東大震災の概要を『茅ヶ崎市史ブックレット』第14集と第16集で確認します。概要はこれで十分ですが、より詳しい資料が必要ならば『茅ヶ崎市史』第2巻（資料編上）と第4巻（通史編）をひもときましょう。これらの刊行物で、いつ、どこで発生し、被害状況の様子などが即座に理解できます。

いつ、この大震災は発生したのでしょうか。大正12年（1923）9月1日（土）11時58分32秒です。最近筆者は12時2分前と伝えます。その方が子ども達には記憶に残るようです。今日（平成27年）から92年前のこ

とになります。震源地はどこでしょうか。小田原と大島の間の海底（北緯 35.3° 東経 139.3°）という資料もありますが、最近の研究では、神奈川県北西部（北緯 32.25° 東経 139.15° 松田付近）といわれています。諸説あるので地質学の研究者のアドバイスも忘れてはいけません。

茅ヶ崎町（当時は市ではなく高座郡茅ヶ崎町でした。小出地区は含んでいません。町とか村単位ではなく郡単位の統計が残っています）の被害はどの様だったのでしょうか。全 3 4 2 6 戸の内 2 1 1 2 戸が全壊、1 2 0 7 戸が半壊、全焼は 1 戸だけでした。東京や横浜と違い大火事は発生しなかったのです。死者は男 6 5 名、女 9 1 名の計 1 5 6 名で、重傷者は 6 1 名でした。町役場、茅ヶ崎・鶴嶺・松林の 3 校の小学校は倒壊、道路は 1 2 カ所で崩壊、橋梁は 8 2 カ所で破損などの被害が報告されています。

資料や解説だけでは理解が難しい場合があります。『ブックレット』第 1 4 集、第 1 6 集も写真は豊富に掲載されていますが、少し大きい写真を見ると理解が深まります。

被害の実態を『写真集 茅ヶ崎きのうきょう』で伝えましょう。13 葉の写真が掲載されていますので参考にしてください。解説は詳しく丁寧です。

写真のタイトルを順に記しましょう。

「倒壊した茅ヶ崎駅北口駅舎」「崩壊した馬入川鉄橋」「傾いた茅ヶ崎駅南口駅舎」「曲がりくねった線路（松尾）」「開通当時の茅ヶ崎駅ホーム」「馬入川渡船場」「渡船に動員された砂利船」「倒壊した堀部別荘（共恵）」「震災前と直後の民家（松浪）」（2 葉）「バラックに住む人々」「伊藤里之助元町長と家族（本村）」「崩壊した茅ヶ崎小学校の後始末（共恵）」以上 13 葉です。

撮影の場所やその意図・状況がわかるとより興味深く読み取ることができます。

次に質問者の興味を引く話題を提供しましょう。

被害の痕跡が 90 年余の今日まで市域の下町

屋・柳島・浜之郷・中海岸・行谷・堤と相模川の中に残っている例です。被害の状況を実見できその上触れることができると話せば、引き込まれ、大人でもびっくりします。

写真を参照しながら例を示しましょう。

- 1) 崩壊した馬入川鉄橋の残骸（上り列車で馬入川鉄橋通過時に南側の川の中に見える。日々流れに洗われているので、保存処理が急務。）



現存する震災で崩壊した馬入川鉄橋の脚台

- 2) 国指定史跡・同天然記念物旧相模川橋脚（下町屋、複製品を展示。地下数メートルには、液状化現象で出現し源頼朝が渡り初めをした橋の橋脚が荒木田土に守られている。建造物が多く破壊された中、橋脚は 700 年後に蘇った希有な文化財。震災勃発 90 年目の平成 25 年 9 月 1 日にこの史跡を見下ろす会場で記念講演会などが開催された。）
- 3) 鳥居の残在（柳島八幡宮境内に記念物として保存。）
- 4) 市指定文化財・旧和田家住宅（元・萩園、現・堤。大震災で被害を受けたが修復して住居として使用、その後移築公開。）
- 5) 旧家の土間の亀裂（浜之郷、家人は今日も亀裂に触れる。）
- 6) 登録有形文化財茅ヶ崎館浴室棟洗場の亀裂（中海岸、家人は震災後数日ここで過ごす。）
- 7) 小出地区の地震道（行谷、大震災で一本の亀裂が走ったと伝承されている。）

などには興味を引く人は多いはずです。市職員でも知らない人がたくさんいます。

また、震災記念碑（萩園・三島神社、松尾・神明神社、今宿・松尾神社、小和田・熊野神社、柳島・善福寺、堤・正覚院、本村・海前寺ほか）や震災犠牲者供養の観音菩薩像（柳島・共同墓地）などからも情報を得ることができます。

痕跡を調べるには調査は不可欠で、現地足を運び実感すればレファレンスの大きな「自信」に繋がります。

以上、震災の概要、被害の実態、被害の痕跡の3項目で概ね回答はできると思います。

先般、「東日本大震災の惨状を伝える震災遺物の収集が、動き出した」との新聞報道（『朝日新聞』平成26年12月21日社会面）がありましたが、東日本大震災の震災遺物同様に「関東大震災の痕跡」の情報収集および保存・記録化を大至急進めたいものです。

2 レファレンス用文献一覧

では、27冊の刊行物に収録の論文・解説・書評などの101点を紹介しましょう。

◎『茅ヶ崎市史』などに掲載の「関東大震災」と「安政大地震」（刊行順）

①『茅ヶ崎市史』1（資料集上）

（昭和52年（1977）10月刊行）

106 保暦間記（佐藤博信）【近世に成立、相模河ノ橋供養、源頼朝の落馬、死去を記す】

114 吾妻鏡（佐藤博信）【建暦2年（1212）、橋修復と頼朝らの死去の関係を記す】

②『茅ヶ崎市史』2（資料集下）（昭和53・10）

第九章 地域社会の動向

三 風水害と関東大震災

- ・茅ヶ崎日記（岩谷莫哀）【大正12年、南湖院入院直後の震災体験を詠んだ歌日記】
- ・大震災思出の記（河合辰太郎）【大正13年、凸版印刷合資会社の創設者の体験記】

・大震災善後事務報告書【大正13年、罹災状況、復旧措置を詳細に記す】

・大震災復旧施設概要【昭和2年、公共施設の被害と復旧、財政的処理を記す】

第十章 別荘と南湖院

一 別荘と海水浴場

関東大震災による別荘の被害【大正15年、警察部調査、有名人別荘24戸の状況】

③『茅ヶ崎市史』3（考古・民俗編）

（昭和55・3）

民俗編 震災供養塔（8基）（樋田豊宏）【供養塔の分布、銘文】

④『茅ヶ崎市史』4（通史編）（昭和56・3）

口絵解説 旧相模川橋脚国指定史跡

古代・中世

第二章 鎌倉時代の茅ヶ崎（貫達人）

第二節 大庭御厨の推移

相模川の大庭野【相模川の橋供養と旧相模川橋脚の露出】

近現代

第九章 地域社会の展開（高村直助）

第三節 関東大震災【大震災の勃発、鉄道と鉄橋、応急措置と復旧、河川の改修】

⑤『茅ヶ崎市史』5（概説編）（藁品彦一）

（昭和57・3）

茅ヶ崎の生いたち

二 懐島郷

2 砥上ヶ原 相模川の渡し【相模川架橋の顛末】

（史話）旧相模川橋脚の保存【和田清・沼田頼輔・貞明皇后の関与】

近代の幕開け

三 村から町へ

3 町政と震災復興

九月一日

(史話) 水越健の短歌

大震災の被害

(史話) 大震災の置き土産

震災復興

(史話) 柳島開門

⑥『写真集 茅ヶ崎きのうきょう』

(昭和 62・10)

第3章 村の生いたち 馬入の橋脚(写真4葉)

第5章 村から町へ 関東大震災の直撃(写真
13葉) 大震災思出の
記(河合辰太郎)【②
『市史』2にも収録】

第8章 描かれた茅ヶ崎 萬鉄五郎画・地震の
印象

⑦『茅ヶ崎市史研究』17(平成5(1993)・2)

口絵解説 馬入大橋陸軍架橋記念碑

加藤清・東哲郎「元工兵第十六大隊本田梅吉氏
に聞くー関東大震災復旧工事(馬入
橋架橋工事など)について」

⑧『茅ヶ崎市史 現代』7 地図集大地が語る

歴史

(平成6・3)

第2部 地図に見る歴史情報

1 地図の変遷

地形図の変遷(野中和幸)

第3部 風土と生活

1 茅ヶ崎の風土

関東大震災と地形の変化(加藤清)

描かれた風景(布施実千雄)

関東大震災と岩谷莫哀

2 海と砂丘

相模湾の地形(野中和幸)

海底地形の概要(野中和幸)

島と根(野中和幸)

3 川と平地

相模川の流路(増尾茂男)

河口の土地利用(北村誠)

⑨『茅ヶ崎市史ブックレット』2、ちがさき
歴史の散歩道(藁品彦一) (平成12・2)

二 鎌倉武士の世界

頼朝の死のなぞ

旧相模川の橋脚

⑩『茅ヶ崎市史ブックレット』3、萬鉄五郎と

茅ヶ崎の風景(小風秀雅・吉城寺尚子)

(平成13・3)

三 茅ヶ崎を描く

風景<地震の印象>

⑪『茅ヶ崎市史ブックレット』4、茅ヶ崎

むかし語り(加藤清・柴田貴行)

(平成14・3)

「大震災の記憶」

「地震だ!」「関東大震災の被害」「茅ヶ
崎駅周辺」「下町屋付近」「多くの被害」「鉄
道の被害」「馬入橋の復旧」「茅ヶ崎小学校
の復旧」

(語り手)柴田周子：明治39年(1906)生まれ

稲村秀子：明治41年(1908)生まれ

小島ツル：明治20年(1887)生まれ

本田梅吉：明治34年(1901)生まれ

【本田は⑦『市史研究』17参照】

「又福丸とともに」

「大震災と漁業」【漁船や網の流失・破損、
納屋の全壊、海底の隆起で網引き漁法が困
難になった場所の出現などで漁業が不振】

(語り手)三橋福松：明治41年(1908)生まれ

⑫『茅ヶ崎市史史料集』四、和田篤太郎日

記(藁品彦一・小風秀雅・大口勇次郎)

(平成14・3)

五「安政二卯年松魚之走里日記」(安政二年
(1855)十月)

日記解題(藁品彦一)

5松魚之走里日記【安政2年3月~12月
の日記、安政大地震が興味深い、萩園村周

辺の被害、江戸が火災によって夜空を染めて、被災者が東海道を避難する様が生々しい。一之宮南湖村々土蔵大破。大津浪の噂】

- ⑬『茅ヶ崎市史ブックレット』6、茅ヶ崎の歴史遺産（編集員）（平成16・3）
松林・鶴嶺

- 20 柳島畑地【柳島の平地と畑地は、関東大震災の犠牲の上にできた】
21 関東大震災と相模川の橋【京都の工兵第16大隊による鉄橋の復旧、旧相模川橋脚の出現と保存整備】
22 柳島八幡宮 折れた鳥居【柳島地区の被害は甚大】

- ⑭『茅ヶ崎市史史料集』五、藤間柳庵「太平年表録」（大口勇次郎）（平成19・3）
二編 四一 江戸の大地震、柳庵の見聞記（安政二年（1855）十月）

- ⑮『茅ヶ崎市史ブックレット』9、近代茅ヶ崎の群像（編集員）（平成19・3）
1 茅ヶ崎の発展
地域経済の発展に尽力した人びと
茅ヶ崎純水館の創設【関東大震災で工場全潰、妻も圧死】（本宮一男）

- ⑯『茅ヶ崎市史ブックレット』10、茅ヶ崎駅の一世紀（本宮一男）（平成20・3）
二 「駅前」の形成
関東大震災と茅ヶ崎駅の拡充

- ⑰『茅ヶ崎市史ブックレット』12、ちがさきと大岡越前守（大口勇次郎）（平成22・3）

第1章 大岡祭

贈位祭【大岡祭は大正12年の第11回まで継続したが、関東大震災によって、浄見寺の本堂は大きな被害を受けたために、翌年から一旦中止】

- ⑱『ヒストリアちがさき』3（平成23・3）
大島英夫「高田畊安日記 関東大震災の記述」

- ⑲『茅ヶ崎市史ブックレット』14、ちがさきの関東大震災、市民の記憶（平成24・3）

- 表紙写真 崩壊した馬入川鉄橋
裏表紙写真（3葉）
小風秀雄「はじめに」
本宮一男「市民の記憶でたどる関東大震災」
加藤 清「茅ヶ崎地区 - 2階建てが倒壊」
柴田貴行「鶴嶺地区 - 土地の隆起」
東 哲郎「松林地区 - 砂丘地の被災」
野中和幸「小出地区 - 地震道」
加藤厚子「子どもたちの記憶」
本宮一男「東海道の寸断と避難民への支援」
大島英夫「津波と茅ヶ崎海岸」
栗田尚弥「流言蜚語と警備団体」

- ⑳『ヒストリアちがさき』4（平成24・3）
東 哲郎「調査余録 記録された安政地震と関東大震災」

- ㉑『茅ヶ崎市史史料集』六（二）、山宮藤吉日記（下）（上山和雄）（平成24・3）
「当用日記 大正12年日記」【九月一日 広瀬善治氏訪問、午後0時5分大地震】
「当用日記 大正13年日記」
「解題 大正12年日記」【余震の中、茅ヶ崎町震災善後会を立ち上げる】

- ㉒『ヒストリアちがさき』5、特集 いま、関東大震災を考える（平成25・3）
表紙写真解説 正覚院にある関東大震災一三回忌の供養塔
武村雅之「地震のメカニズムと被害の実態 関東大震災と茅ヶ崎」
本宮一男「茅ヶ崎の関東大震災関係資料」
大島英夫「避難する人びと」

栗田尚弥「茅ヶ崎町における救援・救護活動」

本宮一男「(解説) インタビュー：関東大震災の聞き取り調査をふりかえって」(話者：太田登、田中潔)

樋口雄一「(書評)『茅ヶ崎の関東大震災－市民の記憶－』を読んで」

鈴木 豊「(書評) 市民が読んだ『茅ヶ崎の関東大震災－市民の記憶－』」

②『茅ヶ崎市史ブックレット』15、ちがさきの村とお殿さま、村がささえた旗本たち(神崎彰利) (平成25・3)

四、村をめぐるエピソード

(三) 殿様の子孫は今【藤間柳庵は安政大地震の折、孫娘の奉公先を尋ね無事を確認、神田駿河台の戸田邸に参上し、無事に安堵する】【詳細は⑭『史料集』5参照】

②『茅ヶ崎市史史料集』七(一)、藤間柳庵「雨窓雑書」(上)(武田庸二郎・藤城憲児・佐藤悦子・見上都・東哲郎) (平成25・3)

三編六 江戸 地震語教(安政2年(1855))

⑤『茅ヶ崎市史ブックレット』16、震災から90年 関東大震災を見直す (平成25・9)

表紙写真(3葉)

裏表紙写真(4葉)

口絵 関東大震災の震度分布

小風秀雅「はじめに 今、忘れてはならないこと」

武村雅之「関東大震災と茅ヶ崎」

加藤厚子「メディアが伝えた被害」

東 哲郎「住民が記録した震災」

栗田尚弥「救援と救護」

本宮一男「交通の復旧」

柴田貴行「復旧事業の展開」

大村浩司「大地に刻まれた震災－旧相模川橋脚の保存」

高木邦善「今、震災に学ぶ－防災対策の現状」

加藤清・大島英夫・柴田貴行「受け継ぐべき記憶－震災と防災教育」

②『ヒストリアちがさき』6、特集 震災から90年－関東大震災を見直す (平成26・3)

表紙写真解説 旧相模川橋脚の出現状況 (大村浩司)

小風秀雅「関東大震災をどう語り継ぐのか」

小風秀雅・栗田尚弥・本宮一男・柴田貴行・加藤厚子・高木邦善・大村浩司「パネルディスカッション～「いま、震災に学ぶ」」

加藤厚子「メディアが伝えた被害」

松本洋幸「ブックレット16 震災から90年、関東大震災を見直す」

②『茅ヶ崎市史史料集』七(二)、藤間柳庵「窓雨雑書」(下)(武田庸二郎・藤城憲児・佐藤悦子・見上都)(平成26・3)『雨窓雑書』解題(藤城憲児)

三編六 江戸 地震語教

以上、資料の一部に簡単な解説を付けました。関東大震災の研究に関して不足はないと思いますので、レファレンスのヒントにしてください。まずは27冊をひもときましょう。次に残りの52冊をひもとけば、レファレンスの専門家と呼ばれるようになります。

蛇足ですが、茅ヶ崎市内で一番図書資料を収蔵しているのはどこでしょうか、もちろん茅ヶ崎市立図書館です。昭和30年代に開館した図書館には歴代館員の努力でおよそ50万冊の資料が蓄積されました。その内の79冊を一読すれば、歴史のレファレンスでは怖いものはありません。79

冊の内の1冊を読破し、巻末の参考文献を参照すれば不思議と芋づる式に資料が繋がって出てくるものです。レファレンスの醍醐味といえますので、楽しい体験をしてください。

時間があれば「楽しい体験」も必要でしょうが、大至急で回答しなければならないときには、次の2冊が役立ちます。『茅ヶ崎市史』5（概説編）と『写真集 茅ヶ崎きのうきょう』です。それぞれの該当部分を紹介してください。

文献を手取るには、市立図書館の2階の郷土史コーナーが最適です。検索は司書も手助けをしてくれますので、文献とゆっくりと対話をしてください。

3 その他の文献や資料について

今回は、茅ヶ崎市史編さん担当の刊行物のみで関東大震災の調べ方を紹介しましたが、これ以外にもたくさんの論文・研究書・資料集などがありますので、市立図書館や市文化資料館も訪ねましょう。

一例ですが市文化資料館の紀要『文化資料館調査研究報告』（22）に収録の「茅ヶ崎における関東大震災に関する証言について」は、須藤格学芸員がかつて市消防本部が実施した聞き取り調査を項目別に整理したもので、『ブックレット』第14集、第16集を補完する基本的な資料です。

『同報告』（23）収録の井上香乃さんの「茅ヶ崎の風景—今昔」には大震災の前後で比較ができる烏帽子岩の写真が掲載されています。『同報告』（11）収録の拙文「柳田別荘の思い出」は柳田国男家の大震災の思い出を多くの文献から抽出しました。その他『同報告』収録の市域石造物の「調査報告」にも参考になるものが多数含まれています。必見の文献群といえます。

また、市文化資料館では平成24年度後半に、湘南地区で先駆けと言える震災90

年記念の関東大震災に関わる特別展「写真と言葉が伝える茅ヶ崎の関東大震災」を開催して大きな反響を得ました。

書籍だけでなく、写真や馬入川鉄橋付近で収集したレンガなど90年余前を彷彿とさせる資料を豊富に収集していますので、本格的に学習や研究の必要を感じた時には、まず学芸員を訪ねてアドバイスを受けましょう。

より多くの資料が必要な時には、国立国会図書館や神奈川県立図書館・同公文書館・同歴史博物館・同生命の星地球博物館は当然のことながら、防災専門図書館をお勧めします。

防災専門図書館は日々防災に関する資料を収集し、最新資料の閲覧が容易ということも一押しです。司書の知識も深く、的確なアドバイスが即座に期待できます。

その他、近在の藤沢市文書館・寒川町文書館・平塚市博物館市史編さん担当・大磯町郷土資料館などでは大震災に関わる資料調査・収集・研究を継続していますので、その成果が参考になります。

関東大震災では一市町村のレベルを超えて湘南地域のみならず県全域で取り組むことができるテーマの一つですので、今から関東大震災の「95周年」（2018年）および「100周年」（2023年）に向けての各機関の研究成果を楽しみにしたいと思います。

（平成27年（2015）3月17日記）

*茅ヶ崎市文化生涯学習課市史編さん担当

【別紙】茅ヶ崎市史刊行物一覧

平成27年3月1日現在

書名	巻数	編名	価格 (税込み)
茅ヶ崎市史	第1巻	資料編(上) 古代～近世	3,700 円
茅ヶ崎市史	第2巻	資料編(下) 近現代	-
茅ヶ崎市史	第3巻	考古・民俗編	-
茅ヶ崎市史	第4巻	通史編	4,900 円
茅ヶ崎市史	第5巻	概説編	5,200 円
写真集		茅ヶ崎きのうきょう	2,800 円
茅ヶ崎市史現代	第1巻	通史・六〇年の軌跡	2,000 円
茅ヶ崎市史現代	第2巻	茅ヶ崎のアメリカ軍	3,000 円
茅ヶ崎市史現代	第3巻	「戦後」日々の記録	3,000 円
茅ヶ崎市史現代	第4巻	茅ヶ崎の暮らしを語る	2,300 円
茅ヶ崎市史現代	第5巻	〔新聞集成Ⅰ〕市民の表情(1945～68)	5,500 円
茅ヶ崎市史現代	第6巻	〔新聞集成Ⅱ〕市民の表情(1969～85)	5,500 円
茅ヶ崎市史現代	第7巻	地図集 大地が語る歴史	5,000 円
茅ヶ崎市史現代	第8巻	図説 市民の半世紀	2,000 円
茅ヶ崎市史現代	第9巻	ちがさきクロニクル 1945-2002	2,800 円
茅ヶ崎市史現代	第10巻	レンズのなかの茅ヶ崎 -昭和の記憶-	-
茅ヶ崎市史史料集	第1集	明治の巡査日記	6,000 円
茅ヶ崎市史史料集	第2集	藤間柳庵「年中公触録」	2,500 円
茅ヶ崎市史史料集	第3集	「茅ヶ崎地誌集成」	1,500 円
茅ヶ崎市史史料集	第4集	「和田篤太郎日記」	1,000 円
茅ヶ崎市史史料集	第5集	藤間柳庵「太平年表録」	-
茅ヶ崎市史史料集	第6集(1)	山宮藤吉日記(上)	1,000 円
茅ヶ崎市史史料集	第6集(2)	山宮藤吉日記(下)	1,000 円
茅ヶ崎市史史料集	第7集(1)	藤間柳庵「雨窓雑書」(上)	1,000 円
茅ヶ崎市史史料集	第7集(2)	藤間柳庵「雨窓雑書」(下)	1,000 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第1集	コロネット作戦ー第2次世界大戦と茅ヶ崎ー	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第2集	ちがさき 歴史の散歩道	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第3集	萬鉄五郎と茅ヶ崎の風景	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第4集	茅ヶ崎むかし語り	-
茅ヶ崎市史ブックレット	第5集	南湖院 高田畊安と湘南のサナトリウム	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第6集	茅ヶ崎の歴史遺産	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第7集	銀幕のなかの茅ヶ崎	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第8集	市民の戦争体験ー兵役・戦場・敗戦ー	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第9集	近代茅ヶ崎の群像	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第10集	茅ヶ崎駅の一世紀 駅と駅前から見る明治・大正・昭和	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第11集	湘南の風景 茅ヶ崎・海と緑の近代史	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第12集	ちがさきと大岡越前守	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第13集	演習場チガサキ・ビーチ	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第14集	ちがさきの関東大震災、市民の記憶	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第15集	ちがさきの村とお殿さま	350 円
茅ヶ崎市史ブックレット	第16集	震災から90年、関東大震災を見直す	350 円
茅ヶ崎市史研究	第30号	「辻堂演習場問題の始まりと地域住民」「華族の別荘生活」ほか	500 円
茅ヶ崎市史研究	第31号	「鉄道会社の観光政策と湘南」「茅ヶ崎の別荘図」ほか	500 円
茅ヶ崎市史研究	第32号	「茅ヶ崎市史現代の編集事業をふりかえって」ほか	500 円
ヒストリアちがさき	創刊号	「歴史ノート 横山雄偉と茅ヶ崎」「インタビュー 海軍薬師砲台での体験」ほか	200 円
ヒストリアちがさき	第2号	特集「チガサキ・ビーチ返還50周年」	200 円
ヒストリアちがさき	第3号	特集「新資料で知る南湖院」「茅ヶ崎と文化人」	200 円
ヒストリアちがさき	第4号	「南湖院の音楽家たち」「映像の時代と南湖院」ほか	200 円
ヒストリアちがさき	第5号	特集「いま、関東大震災を考える」「音二郎・貞奴を語る-トークライブ」	200 円
ヒストリアちがさき	第6号	特集「震災から90年ー関東大震災を見直す」	200 円